

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500168		
法人名	有限会社 とーか		
事業所名	グループホーム とーか		
所在地	山口県周南市政所4丁目11番13号		
自己評価作成日	平成28年3月28日	評価結果市町受理日	平成28年7月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年4月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

とーかは静かな住宅地の中にあります。周りには田んぼや畑もあり、季節を感じながら生活されています。近隣住民の方とのコミュニケーションを積極的に図り、地域に密着した施設を目指しています。日々の生活の中では施設の理念でもある「笑顔」と「ありがとう」を大切に、ご家族の方とのコミュニケーションを積極的に図り、ご利用者の皆さんに毎日笑顔で安心して過ごしていただけるようなケアを心掛けています。近年利用者の方の高齢化に伴い、より身体介護を必要とされる方も増えていますが「今日出来たことが明日もできるように」日々の生活の中にリハビリを取り入れています。またDVDを活用した嚥下体操や寝たきり予防体操なども毎日行ったり、お天気の良い日は散歩にでかけたりと、楽しく身体機能が維持できるようなリハビリを取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は、主菜の一品を併設施設の厨房で調理されたものを利用しておられますが、ご飯や汁物、副菜などを三食とも事業所で、ユニット毎に、季節感のある新鮮で旬の食材を使用され、職員が交代で調理されています。利用者の状態に合わせて、刻み食やミキサー食、お粥など、食べやすい工夫をされています。職員と利用者は、同じテーブルを囲まれて、同じものを食べておられ、職員は、利用者の体調に配慮されながら、食事介助をされたり、会話が楽しめるように支援されています。行事食や外食などを取り入れられている他、食器に工夫され、見た目も美味しく食べられ、食事が楽しめるように取り組まれています。家族会を年4回開催されています。運営推進会議に合わせた開催や食事会や懇談会の他、花見など家族会主催の行事を開催されています。事業所だよりに併せて、利用者の写真や健康管理表、担当職員の手書きの便りなどを家族に送付され、利用者の様子を伝えておられ、家族からの意見が言いやすいようにされるなど、家族との関係づくりに努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「惜福・分福・植福」を理念とし、職員は「1日1回、利用者の方に笑顔になっていただく」と支援しています。理念については職員会議や親睦会などの際に触れることで、常に意識できるよう努めています。	法人の理念を事業所の理念とし、事業所独自で「1日1回、利用者の方に笑顔になっていただく」という目標をつくっている。全職員が理念と目標を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しい住民の方が増えたので、外出の際には特に積極的に声を掛け、と一かの存在を認識していただくよう努めています。また、避難訓練やと一か祭、と一か市などの行事には近隣住民の方へお知らせし、地域と施設とのつながりを積極的に図るよう努めています。	自治会に加入している。近くの神社の春と秋の祭りに利用者と職員が一緒に出かけている。法人が開催している「と一か祭」は、地域にチラシを配布して案内し、多くの地域住民の参加を得ている。毎月10日に開催している「と一か市」では、家族等から提供のあった野菜や遊休品を、利用者が売り子になって職員と一緒に販売し、地域の人との交流の場となっている。近所に新しい住民が増えてきており、散歩時には、積極的に声かけをして、挨拶を交わしている他、手づくりしたおはぎを配っているなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会において認知症の研修を受けた副施設長より「認知症」の講義をしたり、認知症の家族を持つ方や地域の方などがお互いの意見や体験談を話し合える場を提供できるようにしています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	1年に1度の自己評価の機会を自分や施設の介護を見直す機会をして職員全員が取り組んでいます。また各自の意見から職員個々の考えを知ることができる機会ともなっています。	施設長、副施設長、管理者、職員は、評価の意義について理解している。全職員に評価するための書類を配布して記入してもらい、副施設長と管理者で話し合っまとめ、ミーティングで説明し、各ユニットで閲覧できるようにしている。前回の外部評価結果を受けて、全職員が評価項目を理解できるように、各ユニットにガイド集を設置して、職員が常に閲覧し、自己評価に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施。会議での意見は職員会議を通じて全スタッフへ報告、活用しています。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や事業所の取り組み、ヒヤリハットや事故などの報告をし、意見や情報交換をしている。年に1回、家族会と合同で会議を開催し、食事会や話し合いをしている他、ミニ研修で「傾聴のコツ」について学んでいる。市職員より「地域行事の一覧表をつくったら」という提案があり、事業所の年間行事に、地域行事の時期や場所を加えて改善し、参加できる行事には、利用者が行けるように支援しているなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に市の担当者の方へ出席していただき、施設の運営にご理解いただくとともに、不明な点などはその都度担当の方へ質問するなどし、連絡を密に取っています。	市担当職員とは、運営推進会議時の他、電話や出向いて情報交換したり、相談して助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議等で連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の門扉は常時開放していますが、利用者の状態、スタッフの人員の関係などで利用者の方に危険を及ぼすと判断される際には一時的に施錠することがあります。その際には職員間で連携し、施錠しつばなしにならないよう努めています。身体拘束は0。転倒の危険のある方へはセンサーや鈴などを使用し拘束することの無いよう配慮しています。	してはいけない身体拘束について、職員は正しく理解しており、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠していない。スピーチロックについては、気づいた時、職員同士で注意し合ったり、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時にはあざなどないかボディチェックを行い、万が一の場合にも早期発見できるように連携をとっています。また声掛けの言葉にも注意し、スタッフ間で注意しあえる環境づくりを目指しています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には冊子回覧で勉強してもらいました。現在対象者はおられません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所決定後社長・施設長より説明、契約を行っています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回家族会を開催し、家族からのご意見、ご要望を伺っています。また面会時には積極的にコミュニケーションをとり、ご意見を頂いた際には責任者へ報告、敏速に対応するよう努めています。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。電話や面会時、運営推進会議時、年4回の家族会時、毎月の支払に来訪した時などで家族から、意見や苦情、要望を聞いている。利用者を担当している職員が、毎月、事業所での利用者の様子を手書きした便りや、健康管理表、写真を添えて家族に送付し、家族から意見が出やすいようにしている。家族からの要望で、苦情だけでなく、嬉しかったことも投書できる「こころ箱」を設置したが、まだ利用はない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の活用。社長や施設長も利用者、スタッフと食事を摂ったり、慰労会を定期的に行い、スタッフと運営者が話をする場を積極的に設けています。	毎月の職員会議で職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、職員の慰労会や誕生会などで、運営者や施設長が聞いている。管理者は、日常業務の中でも職員から意見や提案を聞いている。利用者の状態による入浴時間の変更についての意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議の場において、今月のMVPを決定。勤務年数によりスタッフへの勤務報奨などスタッフの努力を形にして賞賛することで意欲の向上を目指しています。とーか検定を毎月実施、職員の学ぶ意欲を助長するよう努めています。希望休はできるだけ取れるよう配慮し、有休も極力取れるよう努めています。が全員のスタッフが十分に有休が挙げられないのは課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は積極的に参加、できるだけ希望するスタッフに参加してもらったり、必要と思われるスタッフへ参加してもらうよう配慮しています。施設内研修も随時開催しスタッフの育成に努めています。	外部研修は、職員に情報を伝え、必要な職員に参加の機会を提供している。3名が参加している。内部研修は毎月の職員会議の中で、10分程度の勉強会を行い、年間の計画にそって、副施設長が講師を務めて実施している。ヒヤリハット、心肺蘇生法、感染症ケア、誤嚥、脱水症、転倒予防体操、介護記録の書き方などの勉強会の他、異物の除去の訓練を実施している。資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご家族より意見を伺い、情報収集に努めています。現在センター方式をもとに独自で作成したアセスメントへ徐々に移行中です。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご本人より意見を伺い、情報収集に努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まだ入所段階にない方についてはケアマネと相談しサービス提供を支援しています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に新規の利用者の方は特定のスタッフが密にかかわり、信頼関係を築けるよう努めています。「お世話になってばかりで申し訳ない」と話される利用者の方には「お互いさま」であることを伝えるような言葉かけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りや状況報告書を郵送、また面会時には記録に積極的に目を通していただき、ご利用者の方を共に支えていただけるよう支援しています。また盆正月はできるだけ外出・外泊を依頼していますが、近年では外泊は困難となってきてます。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族や親しい方へ、お手紙を送るお手伝いをしたり、今までの関係が維持できるよう努めています。	家族の面会や親戚の人、友人、自宅の近所の知人などの来訪がある他、絵葉書き、年賀状、来訪者への礼状などを出したり、電話の取り次ぎなどの支援をしている。面会時に、家族が散歩や買い物に連れて行ったり、家族の協力で外出や外食、外泊、墓参り、法事への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作業などを通じて利用者同士が関われるよう支援したり、トラブルが懸念される際にはスタッフが仲介。孤立されている方には積極的に声をかけ、他利用者の方と良好な関係が築けるよう支援しています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所の際にはお見舞いに伺ったり、退所後であつてもと一かの行事をご案内して、関係が継続できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの何気ない意見なども聞き逃さず、知りえた情報は24時間生活シートに記入し、担当者会議においてスタッフ間で共有しケアに活かしています。	入居時のフェイスシートやアセスメントシートを活用している他、日常の関わりの中での利用者の行動や言葉を「24時間生活変化シート」に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞き取って職員間で話し合い、利用者本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接にて情報を収集し、フェイスシートを作成、スタッフ間で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の日課はありますが、本人のリズムを尊重しケアしています。ご本人の心身状態をスタッフ間で申し送り、残存機能の維持に努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を開催、計画の変更の必要な方について検討しています。協力病院の医師、家族へは随時報告、意見を伺い計画に反映するよう努めていますが、家族の意見を伺うタイミングについて今後改善が必要であると考えます。	本人の思いや家族の意向、主治医の意見を参考にして、毎月開催のユニット毎の担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎に計画の見直ししている他、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理表を作成し、食事摂取量や排泄・入浴状況など個別に記載しています。また24時間生活シートを活用し、何気ない言葉も記録してケアに活かせるよう努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院のDr. を中心とし、訪問看護も活用しながらのターミナルケアの実施。インシュリン摂取の利用者の方対応マニュアルの作成、実施。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	川崎観音へ月に1度のお参りを援助したり、山崎八幡宮、政所稲荷の祭事などに参加するなど地域資源を活用しています。また推進委員には民生委員の参加もあり、会議の際に情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医についてはご利用者、ご家族の意思を尊重しています。受診の際には基本は家族へ依頼、必要に応じて送迎など支援しています。緊急時には協力病院へ連絡、受診、往診とご協力いただいています。	利用者、それぞれのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関から、月1回の訪問診療がある他、必要に応じて往診の支援をしている。他科受診等は家族の協力を得て支援している。受診時には「介護と医療の情報連携連絡票」を作成し文章で医師に情報提供している。夜間や緊急時には、施設長を中心に救急車等で対応しているなど、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の契約医の定期往診時に相談報告をするようにしています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にご家族へ連絡をし近況を伺い、できるだけお見舞いに伺い状況把握に努めています。入院時に身体機能、認知度などに著明な変化の低下が見られたときには施設での様子などを説明し、退院がスムーズにできるよう配慮しています		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアへの移行が予測される方については医師、家族を交え担当者会議を開催、家族ご本人の意向を踏まえ方針を決めています。	契約時に、重度化や終末期の指針にそって、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、利用者の状態の変化に応じて主治医に意見を聞き、家族と話し合って方針を決め、入院や他科施設への移設も含め、職員間でも共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハットを活用し、職員会議において検討、再発防止に努めています。特に服薬に関しては間違えることの無いよう、服薬介助時の声出し確認、複数人でのチェックなど気をつけています。緊急時の対応、応急処置などは定期的には実施できておらず、緊急時の対応について不安があるスタッフがいることが今回の自己評価で分かりました。マニュアル作りも含め今後の課題とします。	ヒヤリハットや事故が発生した時は、その都度、その場にいた職員が「介護事故・ヒヤリハット報告書」に記録し、その日に職員間で対策を話し合い、「ケア日誌」に記入し、職員会議で検討して一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。必要な人に介護計画を作成して支援している。誤嚥や異物の除去などの勉強会は実施しているが、応急手当や初期対応について、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、夜間を想定した避難訓練も実施しました。火災時には近隣住民の方のご協力をいただくよう呼びかけています。地震、水害への対策についてはマニュアルを作成しています。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜を想定した通報、消火、避難訓練を実施している。訓練の通知を自治会で回覧してもらい、地域住民の参加を得て、利用者の見守りなどの協力をしてもらっている他、地震や水害への対策についてのマニュアルをつくり、地域住民との協力について話し合い、地域との協力体制を築くように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の方を人生の先輩と敬い、接するように心掛けていますが、馴染みの関係となることでつい親しみをこめた口調となることがあり、注意が必要な場合はスタッフ間で注意し合える環境作りを目指しています。	職員は、利用者的人生の大先輩として敬意を払って接し、一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。今年の自己評価で「職員間でお互いが気づいた時に言葉づかいなどを注意し合える環境をつくる」という目標達成計画を作成し、利用者の尊厳が保てるケアができるように努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々とのコミュニケーションの特徴をスタッフ間で共有し、日々の介護に活かせるよう努めています。おやつが複数あるときにはお好きな物を選んでいただけるようにしています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状としてスタッフ側の都合を優先してしまう場面も多々ありますが、できるだけお一人おひとりのペースを大切にしよう心掛けています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装についてはご自分で選べる方には選んでいただき、ご自分では困難な方については同じ服にならないよう配慮しています。女性には行事の際にはお化粧品をしていただくなどおしゃれを楽しんでいただきたいと支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けなど、出来る方が限られてはいますが可能な限り手伝っていただいています。食事はスタッフも一緒にいただき、会話を楽しみながら楽しい雰囲気作りに努めています。また旬の食材や季節行事、誕生日メニューなどの行事食をできるだけ取り入れてより楽しい食事となるよう努めています。	主菜の一品は、併設施設の厨房で調理したものを利用しているが、ご飯や汁物、副菜などを三食とも事業所で、ユニット毎に職員が交代で調理している。献立は管理栄養士が作成したもので、季節感のある新鮮で旬の食材を使用した栄養バランスの取れた食事を提供している。利用者の状態に合わせて、刻み食やお粥、ミキサー食など、食べやすい工夫している。利用者は野菜の下ごしらえ、盛り付け、味見、テーブル拭き、下膳、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで同じものを食べている。職員は利用者の体調に配慮しながら、食事介助したり、会話が楽しめるように支援している。おやつづくりや誕生日ケーキづくり、行事食、外食などを取り入れたり、食器に工夫して見た目にも美味しく食べられるように、利用者が食事を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下困難な方が増えてきているので、刻み食、お粥、ミキサー食などそれぞれにあった形態で食事を提供しています。水分摂取には特に気をつけ、必要な方については水分量のチェックを行っています。献立は管理栄養士が作成。月に2回体重測定を行い体重の増減のチェックをしています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、入れ歯を使用されている方については夜は洗浄剤を使用し清潔に努めています。必要があれば随時歯科受診を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは極力使用せず、お一人おひとりの排泄パターンに沿ってトイレへ誘導。最近は失禁をされる方が多く、ほぼ全員の方がトイレへの声掛けを必要とされています。	「24時間生活変化シート」を活用して、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、冷たい牛乳やオリゴ糖の使用、腹部マッサージなどできるだけ薬に頼らない排便を目指していますが便秘の方が多いのが現状です。長期間排便のない方については協力医、看護師へ随時連絡し、指示を仰いでいます。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日の入浴ですが、個々の状態に応じて対応しています。できるだけご希望に添えるよう配慮していますが、水虫等の疾患のためこちらで順番を決めさせていただく場合もあります。	入浴は毎日、14時から15時までと、15時30分から17時30分までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせてゆっくり入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人には、言葉かけの工夫や職員が交代して対応し、本人のペースに合わせて入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起きていただき、夜間十分な睡眠がとれるよう努めていますが、ご利用者の高齢化に伴い日中横になることを希望される方もおられますので、その際には夜間の睡眠に影響が無い程度で休んでいただいています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し活用しています。副作用については特に注意が必要な場合は職員会議の席などでスタッフ全員に周知できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドリルや手伝いなどの役割をお願いするなど、張り合いを持っていただけるよう支援しています。またレクリエーションや季節ごとの行事などで季節感を感じていただくよう努めています。年に1回のとーか祭ではユニット毎や個人での出し物をステージで発表します。	テレビ視聴(時代劇、歌番組、相撲、高校野球)、DVD視聴、計算ドリル、漢字ドリル、ぬり絵、工作、折り紙、年賀状、暑中見舞いづくり、季節ごとの作品づくり、歌を歌う、ラジオ体操、口腔体操、ナツメロのど自慢、毎月ある「とーか市」の手伝い、野菜の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、食器拭き、掃除機かけ、モップかけ、タオル干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いや喜びのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で遠くへお出掛けや外出に行くときなどはご家族にもできるだけご参加いただいています。又歩行困難な方でも車イスを使用し散歩へ出るなど、外気にできるだけ触れていただくよう支援しています。	近くの神社の縁日や観音様の接待、周辺の散歩、スーパーでの買い物など、日常的に外出の支援をしている。家族会主催で花見を開催している他、家族の協力を得て、ドライブや外出など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方は少なくほとんどお預かりしています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いなどお便りや、面会やお土産のお礼など積極的にお手紙を書けるよう声掛けしています。また母の日にはご家族にカードを書いていただき、皆様大変喜ばれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花・カレンダー・壁面を季節感のある作品で飾ったりしています。清掃には気を配り、ご利用者、来所者が不快なおいなど感じないように努めています。室温、湿度に気を配り、窓の開閉、エアコンなどを使用し調整しています。	事業所内は、掃除が行き届き、清潔である。リビングダイニングには、自然の光が差し込んで明るく、季節の花を生けたり、壁面に季節に合わせた作品を飾り、季節感を採り入れている。テーブルや椅子、テレビやソファを配置している他、廊下に椅子を置いたり、玄関にテーブルや椅子を置いて、利用者が思い思いに過ごせる居場所をつくっている。キッチンからは、調理の音や匂いがして、生活感がある。温度、湿度、換気、音、光などに配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室、廊下の椅子、玄関のテーブルと椅子などゆっくと過ごしていただく場所の工夫をしています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出のあるものを居室に置いて頂いています	居室には、整理ダンスや籐椅子、テレビ、ラジオ、時計など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、家族との写真や思い出の写真、カレンダー、自分の作品など飾り、居心地よく安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下駄箱に名前・たんすには何がしまっているか書くことで、できることはできるだけご自分でしていただくよう支援しています。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームとーか

作成日: 平成 28 年 7 月 5 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	施設内研修を行ってはいるが、職員会議の一部として行なうことが多く、全職員を対象とできていない	全職員を対象に、応急処置や緊急時の対応について研修、訓練を行う。	ナースを講師とし、全職員、家族等の外部の方も対象に、数回に分けて研修日時を設定し、応急処置や緊急時の対応についての研修を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。